

| | | | |
|--|--|--|---|
| ■After 建築名称 下段: 英語名 | UNIQLO TOKYO UNIQLO TOKYO | |  |
| 建築用途 | 大分類 商業施設 | 小分類 アパレルショップ | |
| 改修設計者 | ヘルツォーク&ド・ムーロン(H&deM), 竹中工務店, 乃村工芸社, トータルクリエイティブディレクター: 佐藤可士和 | | URL |
| 所在地 | 東京都中央区銀座3丁目2-1, マロニエゲート銀座2 | | Google Maps |
| 改修年 | 2020年 | | After 撮影者提供者 柳沢伸也 (2024年) |
| 建築規模 | 約4960㎡ (地上1~4階) | | 概要 after 1984年に建てられたプラタン銀座のビルを、ヘルツォーク&ド・ムーロンが、UNIQLO TOKYOのためにリノベーション。既存の装飾を剥ぎ取り、RC床や壁を撤去して、2層吹抜のエントランス、4層吹抜の内部空間を作り出した。 |
| 掲載書誌 | 商店建築2020年8月号, 新建築2020年7月号 | | |
| 賞・選定 | | | |
| ■Before 建築名称 | プラタン銀座→マロニエゲート銀座2 | | 概要 before マロニエゲート2は、1984年に東京初のパリススタイルの百貨店(プラタン銀座)が入るために建てられた。 |
| 建築用途 | 大分類 商業施設 | 小分類 デパート | |
| ■写真 Before | プラタン銀座が入っていたころのマロニエゲート2 | After エントランスの装飾と2階コーナー部分の壁を撤去した新しいエントランス | After 既存のRC床を切断し吹抜空間を創出。断面がそのまま露出 |
|  |  |  | |
| 撮影者提供者 柳沢伸也 (2016年) | 撮影者提供者 柳沢伸也 (2024年) | 撮影者提供者 柳沢伸也 (2024年) | |
| ■リノベーション内容 | キーワード 外観改変、減築、スケルトン、剥離 | 内容 旧建物は、1984年に東京初のパリススタイルの百貨店(プラタン銀座)が入るために建てられた。新たなテナントとして入居するUNIQLO TOKYOの設計を担当したヘルツォーク&ド・ムーロンは、既存建物のコンクリート躯体(柱や梁など)が、機能的な美しさとシンプルさを兼ね備えていることに着目し、この建物のリノベーションを行った。各階のコンクリート床スラブを精巧に撤去し、2フロア分の高さを持つエントランス空間と、4フロア分の吹抜空間を創出した。また、柱や梁の改修は最小限のモルタル補修でとどめ、そのまま露出させた状態で仕上げている。その結果、銀座の街の活気を店舗の中まで引き込んだミニマルかつシンプルな商業空間を作り出している。 | |
| ■備考 | 外部には、屋上部分のみに、ユニクロの存在を示す真っ赤なデジタルキューブが増築された。エントランス側外壁には、リサイクルガラスを使用したビーズを埋め込み、洗い出し仕上げを行った。 プレスリリース https://www.uniqlo.com/jp/ja/contents/corp/press-release/2020/06/20060813_ginza.html | |  |
| ■作成者 氏名/所属 | 柳沢伸也, 桐原武志/JIA再生部会 | | 作成協力 |